

2017年1月4日

十倉 雅和 社長 年頭あいさつ要旨

昨年の世界動向を顧みると、グローバリゼーションや自由貿易、多様性の尊重といった、これまでわれわれが規範としてきた価値観が揺らぎ、将来に対する不透明さが増している。しかし、こうした状況だからこそ、**本質的に重要なことを見極め、腰を据えて取り組んでほしい**。住友の第二代総理事 伊庭貞剛が残した言葉に、「あくまで現実を重んずるも、現実には囚はれず、常に理想を望んで現実に先んずること唯一歩なれ」というものがある。これは、「事業というものは、現実問題としていろいろなことがあって、どうしても目先のことに追われてしまうものだけれども、遠い将来へのビジョンを持ってほしい」という意味だ。世界が不確実性を増す今こそ、この教えにわれわれ一人ひとりが深く思いを寄せることが大切である。皆さんには、次の3つのことをお願いしたい。

1. 中期経営計画の事業戦略やアクションプランを、より徹底的に、加速して取り組むこと

なかでも「事業ポートフォリオの高度化」には、「『技術』で勝負できる事業分野への注力」と「技術を基盤とした『新しい価値』の創造」を徹底し、力強く前進させていく。

2. 社会とのつながりを常に意識して業務に取り組むこと

今、世界は持続可能な社会の構築に向けて大きく変わろうとしている。われわれ住友の事業は、「自利利他 公私一如」の言葉にあるように、社会や公益との調和を重視している。「化学」が持続可能な社会の実現に大きく貢献できる、夢のある産業であることに誇りを持ち、日々の業務にあたってほしい。

3. コンプライアンスの徹底、安全・安定操業の確立と継続

コンプライアンスと安全は、企業存続の大前提である。たった一人のルールを軽視した行動や意識の希薄さが、重大なトラブルや、経営の根幹を揺るがす事態を引き起こしかねないことを、改めて全員が心に刻んでほしい。

皆さんには、アンテナを高く張り、変化をいち早くかぎ取り、自らが変化することをおそれず行動することを期待する。われわれが、**サステナブルな、そしてレジリエントな住友化学グループを作り上げる**のだという気概を持ち、本年も全員が一丸となって前へ前へと歩を進めよう。

以上